

平成 27 年度鍼灸等研究費研究成果 要約

研究課題名	鍼灸の安全性教育のための e ラーニング教材の開発とシステム構築
班長 氏名/所属機関	新原 寿志 明治国際医療大学 鍼灸学部
班員 氏名/所属機関	上原 明仁 呉竹学園 東洋医学臨床研究所 菅原 正秋 東京有明医療大学 保健医療学部 古瀬 暢達 大阪府立大阪南視覚支援学校 山崎 寿也 関西医療大学 保健医療学部 村瀬 智一 明治国際医療大学 医療情報学教室
成果	
1. 目的	鍼灸を広く国民に提供するためには、その安全性が担保されていなければならない。そのためには継続的かつ質の高い安全性教育が必須である。本研究の目的は、新たな安全性教育のアプローチとして、国内の鍼灸師を対象とした鍼灸の安全性に関する e-ラーニング教材とそのシステムを構築することにある。
2. 内容	e-ラーニング（Web サイト）の構築には BiND FOR WEBLiFE* 8（digitalstage）を用いた。学習項目は、感染防止対策総論、手指衛生& 施術野の消毒、感染経路別予防策、使用する鍼と廃棄、衛生的刺鍼法、鍼灸の有害事象総論、鍼灸の有害事象各論①、鍼灸の有害事象各論②、鍼灸の禁忌、刺鍼に注意を要する経穴、関連施術の注意事項の 12 項目とした。教材内容は、鍼の基礎教育と安全性ガイドライン（WHO, 1999）、鍼灸医療安全ガイドライン（尾崎昭弘・坂本歩・鍼灸安全性委員会編, 2007）、医療現場における手指衛生のための CDC ガイドライン（CDC, 2002）等を参考にした。教材として、テキスト・表・写真・MRI 画像からなるマニュアル式のスライドと、音声付き動画によるスライドショーを作成した。将来の認定制度での運用を念頭に、同アンケート機能を用いて受講者の登録を行えるようにした。受講者登録と各学習項目の試験は Google Apps for Work のアンケートフォームで作成し、上記 Web サイトにリンクを張った。
3. 成果/考察	作成した Web サイトと教材および試験のレイアウト、ボリューム、操作感、理解のしやすさについて、明治国際医療大学大学院の大学院生（8 名、臨床経験 2～3 年）にアンケート調査を実施したところ概ね良好な回答が得られた。これは教材にテキストや表のみならず音声付き動画や MRI 画像を取り入れたこと、表現をできるだけ簡素化したことによると考えられ、安全対策への理解がより深まることが期待された。一方、各学習項目および全体のボリュームが「多い」あるいは「やや

多い」と感じたものが 25.0～50.0%存在したことから、これらを見直す必要があると考えられた。また、スライドの切替や動画ボタンの位置が分かりにくいなど「使いづらい」あるいは「やや使いづらい」との回答が 25.0%～37.5%存在し、一部レイアウトの改善も必要である。さらには、試験においてはテキスト情報のみに留まっており改善の余地がある。

作成された e-ラーニングは Web サイトによる運営のため、インターネット環境があれば、国内のあまねく鍼灸師および学生が鍼灸の安全性に関する最新の内容を学習することが可能である。しかしながら、今回、我々以外の教育関係者あるいは視覚障がい有する方々の意見を聴取できていない。今後は、これらの方々の意見を聴取すると共に、教材内容のブラッシュアップとユニバーサルデザインによる Web サイトの構築を進める必要がある。また、今後の本格的な運営を念頭に、鍼灸関連団体との協力のもと継続的な運営システムを構築する必要がある。